

vol. 2342

【発行】大分県高等学校教職員組合教宣部 大分市大字下郡496-38 大分県教育会館
TEL / (097) 556-2838 FAX / (097) 556-8998 MAIL / ohtwu@view.ocn.ne.jp

大分県高教組情報

【発行者】大野 真二 【印刷】(株)佐伯コミュニケーションズ 【売 価】30円(組合員の購読料は組合費の中に含んで徴収しています)



今号の掲載内容 (掲載順)

- 平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立 日教組第75次教育研究全国集会
- 九協 第72回「母と女性教職員の会」参加報告
- 九協 第44回「両性の自立と平等をめざす教育研究会」参加報告
- 第47回 九協 2.11平和教育研究集会 参加報告
- 2.11建国記念の日を考える集い
- 教員採用試験対策講座
- 退職予定者集会

平和を守り、真実をつらぬく民主教育の確立 日教組第75次教育研究全国集会

全体集会 とき：1月15日(木) ところ：Web

分科会 とき：1月23日(金)～25日(日) ところ：三重県

日教組の第75次教育研究全国集会は1月15日(木)に全体集会をWebで行い、全国で2,700人が視聴しました。1月23日(金)～25日(日)には三重県の日野市・鈴鹿・津で分科会が開催され、実践の交流と様々な教育課題に関する議論が3日間にわたって行われ、全国からのべ8,000人が参加しました。大分高教組からはリポーター3人、司会者1人、本部1人の計5人で参加しました。

全体会はWebで開催され、梶原貴日教組中央執行委員長が子どもの自死の増加や教職員の精神疾患による休職者の増加に触れ、子どもたちの豊かな学びを保障するためにも教職員の働き方改革が重要だと述べました。

開催地の山門真三重県教組執行委員長のあいさつでは、「労働組合なのになぜ教育研究活動をするのか」と若い仲間から疑問を投げかけられるというエピソードが語られました。山門委員長は、47教育基本法の「われらは、さきに、日本国憲法を確定し、民主的で文化的な国家を建設して、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする決意を示した。この理想の実現は、根本において教育の力にまつべきものである」に立ち返り、私たち教職員は教育の最前線にいるという自覚を持たなければならない、自主的な教育研究の場を守らなければならないと話しました。

記念講演では、「出えて、よかった」すべてのいのちにかがやきを…と題して、福永卓司さんによる一人芝居が演じられました。この一人芝居は、山田洋次監督の映画『学校』を基にしたもので、生徒一人ひとりの家庭背景にまで思いをはせ、教育の原点を思い起こさせる作品でした。福永さんの一人芝居の後、『月刊JTU』でおなじみのブルボンヌさんと福永さんとの対談が行われました。対談では男女格差や性的少数者の問題、誰もがアイコンシャスバイアス(無自覚の偏見)を持っていること、そのことに自覚的でなければならないこと等が

雪の降る中、分科会が行われました

話されました。

寒波による雪の中で行われた分科会では、全国的に高校の実践レポートが少なくなっているなか、大分高教組のレポートは、各分科会で貴重な報告となっていました。

23日からの分科会では、24の分科会に分かれ500本の教育実践レポートについて共同研究者とともに討議を深め、最終日にはそれぞれの分科会での総括討論を行いました。

日教組第75次教育研究全国集会に参加して ～全国教研還流報告～

技術・職業教育

「大分県中津東高等学校におけるカリキュラムマネジメントとアクティブラーニングの統合環境プロトタイプの構築」

リポーター・佐藤新太郎（中津東）

全国教研に参加し、私が今年度とりくんだサーベイ・フィードバック理論に基づく授業改善の実践について発表する機会をいただいた。分科会では高校の教員だけでなく、中学校の教員の前でも発表するという、破格の機会を頂戴することができた。生成AIの登場により、Vibe Codingを用いて

私が開発した「JIS-BASICシミュレータ」を披露することができた。これにより、平均点が約60点から約80点へと短期間で大きく向上する成果を得た実践を発表することができた。これは、コーディングの民主化が進み、教員自身が教育的意図に基づいて教材を開発できる時代に入ったことを示すものと思われる。さらに、生徒が廃食用油を活用した発電機を開発する「からエネ」プロジェクトについても発表の機会を得た。参加した中学校の先生からは「工業高校が面白そうなので生徒を工業高校に進学させます」という言葉もいただいた。時代が変わりつつある。

カリキュラムづくりと評価

「カリキュラム・マネジメントが拓く子どもと教職員のウェル・ビーイング」

リポーター・濱田真一郎（由布支援）

校種を超えて共鳴する「人権モデル」と「対話」の力

全国から約20人、小中学校からの参加が中心の分科会で唯一の支援学校（高校）という立場で昨年に続いての参加。雪降る四日市で熱い交流ができました。福島県の報告からは、教育課程の外で苦闘する登校拒否の子らや教員への視点の重さを、静岡の実践からは、個の経験値を組織の知へ変える「対話」の力を再認識しました。

議論の核心は私たちが「子どもの伴走者」であるというマインドセットでした。これは、今回私が報告した、職場の仲間と進めてきた教職員のウェル

ビーイングを基盤とする「人権モデル」の改革とも深く共鳴するものでした。

カリキュラム・オーバーロードに象徴されるトップダウンの改革に抗い、現場の対話から教育を紡ぐ全国の仲間存在は、私たちの歩みも「実践を支える確かな土

台」となったとの実感を深めてくれました。

これで一つの区切りと思いつつ、新たなスタートラインに立ったと感じました。この経験を糧に、また日々の教育活動に向き合いたいと思います。

音楽教育

「音のデザインを取り入れた授業 効率的な学習のための授業改善」

リポーター・稲田 雅史 (三重総合)

音楽教育部会に参加いたしました。2年前同様、高等学校の発表は私1人でした。このことについては予想していたため、今回はどうすれば小中学校の先生に発表内容や高等学校の現状を理解してもらえるかを頭に強く入れながら発表しました。発表については、小中学校の発表を参考に、動画を活用し、生徒の活動によって発表内容の理解を試みました。思惑通り動画は有効でありましたが、発表時間が短すぎてすべてを伝えることができませんでした。発表の仕方については、今後もう工夫必要だと感じました。2日目の懇談会では、高等学校で困っている階名読みに対する小中学校のとりくみについて質問いたしました。

音楽教育部会に参加いたしました。2年前同様、高等学校の発表は私1人でした。このことについては予想していたため、今回はどうすれば小中学校の先生に発表内容や高等学校の現状を理解してもらえるかを頭に強く入れながら発表しました。発表については、小中学校の発表を参考に、動画を活用し、生徒の活動によって発表内容の理解を試みました。思惑通り動画は有効でありましたが、発表時間が短すぎてすべてを伝えることができませんでした。発表の仕方については、今後もう工夫必要だと感じました。2日目の懇談会では、高等学校で困っている階名読みに対する小中学校のとりくみについて質問いたしました。

外国語教育

司会者・仁木 史絵 (三重総合)

三重県四日市市で開催された「第75次教育研究全国集会」の第2分科会に、司会者として参加しました。今年度も高校からのレポートがなかったのは残念ですが、小中での試行錯誤しながらの実践を聞くことができました。課題は多くありますが、根底にあるものは人権、平和などであり、「英語を通して何を伝えるか」を明確にし、そのために私たちが何をすべきかを再確認できた分科会でした。

九協 第72回「母と女性教職員の会」参加報告

とき 11月15日(土)・16日(日) ところ 佐賀県教育会館

11月15日(土)・16日(日)に佐賀市で「母と女性教職員の会」が開催されました。

開会行事ののち、佐賀市在住のシンガーソングライターの吉武愛子さんによる講演とコンサート「共に学びあい(愛)、共に認めあえる喜び」が行われました。パワフルな歌声と心に染み入る歌詞。気づいたら自然と涙が流れていました。

第一分散会では、八女市の保護者と教職員のとりくみと、沖縄県の保護者の読み聞かせの活動についてお話を聞きました。「子宮頸がんワクチン」「フッ化物洗口」について、命に関わることでありながら、知らなかったこと、知らされていなかったことがあることに驚きました。また、米軍基地のある沖縄で実施する平和学習では、事実と思いを分けて生徒達に伝えていかなければならない難しさがあることを知りました。知るということ、能動的に情報を得る努力をすることが必要であることを痛感させられました。

(大分商業分会 財津 真代)

九協 第44回 「両性の自立と平等をめざす教育研究会」 参加報告

とき 12月26日(金)・27日(土) ところ 宮崎市民プラザ

12月26日(金)・27日(土) 宮崎市民プラザで、日教組九州地区「第35回人権教育推進交流集会」と合同で開催されました。性別問わず150名程度の参加者が集いました。基調報告は前年度開催県の沖縄県から行われ、女性と労働(ジェンダーギャップ指数においてG7最下位、特に政治や経済の場面で女性の登用が少ない等)、学校におけるジェンダー平等(2026年12月施行予定の「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止のための措置に関する法律」について等)、LGBT理解推進法、選択的夫婦別姓制度の現状について話が行われました。この年末に開催されることの意図として「忙しい年末に女性が家を空けることに対して申し訳なさを抱かずに学びを行うことを拡充する」というような意味があるそうです。またジェンダー等に関する用語集が最初に配布されたのも印象に残りました。

分科会1日目は、「労働・家庭」「性の教育」のうち後者に参加しました。40名弱の参加でした。以下5本のレポート発表がありました。

- ①鹿児島県 「ないごて?標準服 ~学校のきまりをみなおすことで~」
- ②沖縄県 「両生の自立と平等をめざす教育」
- ③長崎県 「授業『いろいろな性ってなんだろう』に再チャレンジ」
- ④宮崎高 「高校生が知りたい『性・生・からだ』~包括的性教育の実践」
- ⑤佐賀県 「減少する研修機会の中で~教職員と学生アンケートから見える性の多様性教育の今~」

失敗談も交えながら、悩みつつも児童生徒に向き合う教職員の姿に尊敬の念を覚えました。大分県の当たり前は他県の当たり前ではないことに気付かされ、まだまだ身近には多くの「?」があること、見直すべきことは声を上げる必要があると改めて感じました。また、言葉の定義や概念がもたらす影響の大きさがよく分かり、国語の教員としても学びのある時間になりました。今回は包括的性教育の話は初めて詳しく聞いたので、もう少し勉強してみようと思います。

(大分舞鶴分会 古長 真耶)

分科会2日目は、1日目に発表された5本のレポートをもとに、①意識・慣習の見直し「子どもや学校に潜むジェンダー・バイアスに向き合い、ジェンダー平等な学校を形成するために、子どもと教職員、保護者(地域)の意識を変革する、②性の教育「包括的性教育を推進する」の2つを討議の柱として、また、キーワードとして「当事者として(自分事として)」と「ことばのつかい方」の2点を挙げ、議論を深めた。

前半はレポートに関して質問・意見がある参加者が自由に発言し、後半は前半に発言していない参加者も必ず発言するという形式で行い、36人全員が思いを述べる2時間半となった。

閉会行事は、参議院議員古賀千景氏の挨拶の後、各分科会からの報告、全国教研の報告者の紹介があり、最後は来年度開催県である大分県教組の森恵子女性部長の挨拶で締めくくられた。

質問・意見では、鹿児島県の9割の小学校の標準服着用に始まり、男女トイレの構造、教室の席替え、などが挙げられ、学校で生徒の人権に配慮してとりくむべきことが依然として多数あることを認識した。また、レポートにあったアンケート「LGBTQ+になるのは本人の選択か?」に対する回答「そう思う」が学生85%以上、教職員も60%あったことは、科学的知識や人権的視点が十分共有されていないことを示し、愕然とした。しかし、参加者の発言にあったように、「自分たちのこれまでのとりくみの反省はするが、悲観的にならず、3学期があるのだから、まだやれることはある」という意識をもって一歩前へ踏み出す力をもらった研究会であった。

(日出総合分会 伊藤 典子)

第47回 九協 2.11平和教育研究集会 参加報告

とき 2月10日(火)・11日(水) ところ 佐賀市

佐賀市で開催された「九協2.11平和教育研究集会」に参加しました。佐賀大学の吉岡教授による「佐賀オスプレイ配備と九州・沖縄の『基地化』に抗して一憲法9条から考える、私たちにできること」の講演は本当に興味深く、考えさせられました。分科会では、鹿児島中・福岡小・熊本高の報告がありました。このような時代だからこそ、平和のために行動できる生徒たちを育成していくために、私たちはさらに学習を重ね、熱量をもってすすんでいこうと、改めて思うことができました。

(三重総合分会 仁木 史絵)

2.11建国記念の日を考える集い

とき 2月11日(水) ところ アイネス

2月11日(水)、建国記念の日を考える集いに参加しました。

最初に小林華弥子さんが、2月8日(日)に投開票が行われた衆議院議員総選挙について、支援へのお礼と結果に対するおわびの言葉がありました。

続いて、徳田靖之弁護士による講演が行われました。まず憲法9条について、徳田弁護士の生い立ちの話を交えながら、「9条は戦争体験から導かれた、永久に非武装中立であり、戦争をしないという『誓い』が形になったもの」であると述べられました。「現実に合わせて憲法を変える」ことは問題外であるということになります。

1996年に廃止された優
生保護法については、憲
法施行後の1948年に全党
の賛成でできたことや裁
判官が誰一人異を唱えな
かったことが悲しいとの
お話でした。徳田さんに
とっては、駅の無人化に

ついて「わがままを言わないと生きていけない人が声をあげて何が悪いのか」との思いで裁判を続けていることが、優生思想とのたたかいでもあると述べられていました。

ハンセン病の問題は、最近のコロナ問題と根が共通しており、自分が差別される側である感染者になってやっと差別がなくなるという、加害者の悲しみを述べられました。

総選挙の結果、憲法の危機を迎えるこの時代に大切なのは、「一人ひとりが憲法と向き合い、一人が一人を変えていくたたかいである」ということが印象に残りました。私たちが今までやってきたことは間違っていない。「少数は社会を変革する側である」との徳田さんの言葉を胸に、日々のとりくみを進めていきましょう。

第1回教員採用試験対策講座

とき 3月7日(土) ところ 高教組研修所

「第1回教員採用試験対策講座」を開催しました。今年度も一次試験に向けては3回、二次試験に向けても面接練習等を予定しています。一次試験対策は、毎年好評を得ているTAC株式会社の授業を視聴する形式です。第1回の今回は「教育法規」についての講座でした。年度末、急遽の呼びかけとなったこともあり、参加者2人と少数でしたが、参加した方からは、今回も

好評を得ています。4月（「教育原理」）、5月（「教育時事」）も開催いたします。

大分高教組は、これからも教職員を目指すみなさんを精一杯支援します。

退職予定者集会

とき 3月7日（土） ところ 教育会館101研修室

3月7日（土）に、25年度末に退職する組合員を対象に退職予定者集会を開催し、5人の退職予定組合員が参加くださいました。

集会では、梶原悟高退教会長をはじめ、来賓の方に挨拶をいただき、大野委員長が一人ひとりに感謝状と記念品を贈呈しました。退職予定者を代表して、上野かなめさん（別府支援分会）より、あいさつをいただきました。これまでとりくんできた活動、仲間の大切さなどについて語っていただき、改めて高教組の大切さを実感できました。後半では、教職員互助会・教職員共済・ろうきんから、退職時の手続き等についての説明がありました。

これまでの高教組運動へのご協力に深く感謝いたします。これからのご健勝とご多幸をお祈りいたします。今後も、お元気でお過ごしください。退職予定者集会に参加された方で写真がほしい方は、本部までご連絡ください。

上野かなめさん あいさつ

記念品・感謝状

《参加した皆さんからのメッセージ》

「新仲」で多くの仲間が集まった時のことをなつかしく思います…

分会長を何度もしましたが、今となっては良い思い出です。これまで本当にありがとうございました。

（高田分会 佐藤 忠夫）

私にとって組合は、自分の不安を和らげるものだったと思います。長い間、お世話になりました。

（日出総合分会 伊藤 典子）

組合の活動で県外にも多く行かせてもらい、多くの「知らないこと」を学ばせていただきました。さらに、あれっ？これっ？と思ったことを相談できるのも組合でした。そしてそのあれっ？を一緒に考え、解決の方向へと導いてくれたのも組合でした。あれから…37年たくさんの方と出会い、楽しい思い出ばかりです。ありがとうございました。これからも一緒に活動していきたいと思っています。

（新生支援分会 田畑 幸子）

長い間、ありがとうございました。
これからも、お元気にお過ごしください。